



# 白陵

■白陵会事務局 〒676-0827 高砂市阿弥陀町阿弥陀2260(白陵高等学校内) TEL.079(447) 1675(代) FAX.079(447) 1677  
URL:http://www.hakuryokai.jp



## 会長挨拶



会長  
天野泰文

白陵同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より同窓会活動にご理解ご協力いただき、心よりお礼申し上げます。

さて、1年前の本稿執筆中の2月末、新型コロナウイルスが我が国でも発生し連日マスコミを賑わしていますが、会報が届くころにはコロナ騒動が治まってくれていることを期待していますと書きました。残念なことに甘んじ期待は完全に裏切られ、コロナはその後日本国中はおろか世界中に猛威を振るい、2月には白陵中高を含む全国の学校の一斉休校、4月の緊急事態宣言後、いったんは終息したかに見えましたが、本年1月には10都府県に再び緊急事態宣言が出される頃には宣言解除がなされ、コロナが終息に向かっていることを昨年の会報同様再度祈る気持ちでおります。

この1年の列島を揺るがしたコロナ騒ぎのなか、6月13日ホテルモントレ姫路で予定していた第55回白陵会記念総会を中止し、12月1日総会に代わる決算予算決議のための役員会以外、事実上活動を停止の状態に追い

込まれました。また、本年6月に開催予定の令和3年度白陵会定例総会も現時点でコロナ禍が終焉しているかどうか見通しがたないことから、総会を秋以降に延期することに決定しました。総会の日は追って通知したいと考えておりますが、状況次第では総会の再度中止となることも予想されます。

そのようななかで、令和元年の臨時総会において決議された年会費制度導入に關し、多数の卒業生のご協力により現在1,854,000円が集められました。こころより感謝いたします。本年も更に多くの卒業生が年会費を納入してくださいようお願い申し上げます。これらのお金は、各クラブOB会の助成など同窓会の更なる活動資金として、また母校の設備拡充の一助として、在校生のクラブ活動などの援助金として利用させていただく所存です。

コロナ禍はまだまだ続いています。人は多少の異常事態が発生しても、それを正常な範囲内ととらえ大丈夫だろうと判断することを「正常性バイアス」といいますが、コロナ禍の中、自分自身は感染しない、感染しても大丈夫だなどと思わず、よく言われることですが、三密を避け、マスクを着用し、手洗いを敢行し、元気な姿で秋の白陵会総会でお会いできることを楽しみにしています。



理事長 齋藤 興哉

穏やかに変革を重ねて

恒例のことですが、正月明けの九日に総社・射橋兵主神社にお参りし、学受けてきました。私は、こういう神社のたたずまいや神事は嫌いではなく、また祀られている五十猛尊、大国主命がいずれも関心のある出雲王朝に縁がある神様なので、豊かな心持ちでいたす。それにしても、宮司さんの祝詞を聞いてみると、どの神社の祝詞もよく似ていて、はるか昔からずっと同じ言葉を唱えてきたような感じで、それがとりもなおさず、神社の古さと不易性を象徴するように思っていました。しかし、言うまでもなく、日本の神社は、長い神仏混淆の時代や明治維新の廃仏毀釈等を経験して、今の形に納まつています。その歴史はそれなりの起伏があつたはずですが、境内に祀られている摂末社の多さを見ても、まさに穏やかそのものではないかと感じます。東播磨のお社はもとより、遠く信濃の戸隠社やわが故郷の山形羽黒の社、濃いたことのない手置帆負(たおきほい)社までが鎮座していました。それらをつくつたのは、徳川江戸の歩みとその多彩で安定した成熟社会と言つていいでしょう。十七世紀の島原の乱は多大な犠牲者を出すことで武力の時代を終わらせましたが、十八世紀初めの宝永の地震と津波は新田開発の流れに停滞をもたらし、人々は身の丈にあった豊かさを求めることになりました。それは農書の普及や読み書き能力等の向上等につながり、小さな農地に肥料と手間を投入する、いわゆる「小面積精作」という日本農業の基本形をつくりました。そこには、小さな

改革による小発展と安定がありまし。その間幕府は、時に緊縮政策を實施しながらも全国的市場経済を容認し、鎖国を掲げる一方で必要な海外情報や新文化を取り入れ、治安の維持と街道等の整備によって容易な移動と観光を可能にし、江戸時代の多彩さを生んできました。ひるがえって、今の世の中です。何人も人が、「このコロナ感染が納まつても、その後の社会の有り様」と言いました。それとおりかも知れませんが、日本は似たようなことを江戸時代以来何回も経験してきました。この白陵の六十年に満たない歴史を振り返つても、いくつもの変革がありましたが、スバル的な指導はいつか消え去り、逆に他にはないような記念棟や芸棟が建つていくこと細かに定められた制服制度は二度も変更され、高校生にはその制服もなくなつていく。活動は生物・化学に加えて吹奏楽部や文芸部が台頭している等々。白陵会が年次会費を徴収し、毎年総会を開くというのも、相当な変化です。これらの変化の中で、白陵は混乱を起こしたり、その本来の持ち味を失つたりしたことは一度もありません。「研究と訓練」の校是は揺るぐことなく、新しい状況のなか少しづつ自らを変化させています。日本人は、こういう変革と言いつつ少しづつ変えていくことがうまう、またその変化への対応が好きでタイプなのかも知れません。明治維新も革命なのか単なる政権交代なのかはつきりさせないまま、その後の歩みは大きな犠牲や痛みを強えず、次の時代を迎えることができま

同じように、白陵の卒業生も、学園の歩みと自分の選んだ道に素直に抱いて目の前の課題に対処してゆき、いつの間にか大きなことをなし遂げてしまふ人が数多く出るとは、私は大いに期待をしております。

故 黒坂康夫元同窓会長を偲んで



1期生 黒坂 康夫

黒坂先輩の突然の訃報に接し、一昨年の春ごろにお元気な様子で我々の後輩の選挙にあたり叱咤激励を受けたことを懐かしく思い出します。

元々黒坂先輩とは実家が近所で古い話ですが、私が中一で入学してからの折に黒坂先輩が高校三年生と一緒に通学をしたことを懐かしく覚えております。

ただ、二期期からは新しくできた白陵寮に私が入寮したため、その後はあまりお話をする機会もなく過ぎておりましたら、確か昭和の終わりごろだったと思うのですが黒坂先輩からいきなり電話があり「上田、園長からの指名で同窓会を正式に作るんで手伝え」と捲し立てられました。当時は柔道部のOB会の世話をする藤田家将先生から仰せつかれましたので先生からは『要らんことせんてええ』とお叱りを受けたことを覚えております。

とは言え黒坂先輩も言い出したから中々引かない方で、結局同窓会にも参加することになりました。ただ最初の役員会でいきなり黒坂先輩が会長、私が副会長という人

事には正直驚きました。黒坂先輩の同窓会への思い入れは今振り返つても大変強いものがあつました。総会の開催、名簿の作成、会報の発行などはいずれも黒坂先輩が会長の時に作り上げたものです。当時は全てが園長の許可がいりました。あの折に園長と渡り合えたのは黒坂先輩しかいなかったのではないかと思ひ出されます。

最後に黒坂先輩との一番の強烈な思い出は園長が逝去された折、黒坂先輩から、わしは香典をこれだけする。副会長はこれだけしなさい(当時は私はまだ平社員で大変でした)、と言われ、尚且つ葬儀の同窓会の受付、香典の仕分け、計算とすべてをやらされました。この時は名古屋の安楽院で三千人を超える参列者で会場も周囲の道路も大渋滞、なかなか香典の計算が合わず難儀しました。今となつてはこのことも懐かしい思い出です。

私は黒坂、黒川、沼田、天野と四人の会長に仕えてまいりましたが、やはり今の同窓会の礎を創つたのは黒坂先輩だと思つております。あまりにも早い旅立ちに残念な思いでいっぱいですが、同窓会と同窓生をどうぞ見守りください。

6期生 上田 喜裕



校長 宮崎 陽太郎

コロナ禍を振り返って

同窓会の皆様には、日頃から本学園の教育活動に対してご理解とご支援をいただきありがとうございます。またコロナウイルスの脅威も差し迫つていなくなつた昨年二月、白陵高校第五十五期生が巣立つていきました。今から思えばこの卒業式が、学校行事としては通常のスタイルで行きた最後のものでした。それ以降の行事では、形を変えて行ったものの、延期になつたもの、中止になつたもの、新たにたくされたものなど、次々に変更を余儀なくされました。

そのような中で最大の危機は、四月、五月の休校でした。これまでも「授業第一主義」を貫いてきた白陵にとつては、授業のできないことは決定的な痛手でした。当初は教材などを生徒に郵送で送つたりもしましたが、「ピンチをチャンスにしよう」とできることは何でもしよう」ということで、まずはWeb会議ツールや動画共有サービスなどの利用を始めました。続いてクラウド型ICT教育ツールの導入、PCのない生徒へのタブレットの貸与、オンライン授業もできるようなになり、校内Wi-Fi化なども矢継ぎ早に行いました。それらが学校が再開できるように、六月からは学校が再開でき、表面には授業の大きな遅れもなく現在に至つています。

追悼文

黒坂洋平 (30期生)

父である故黒坂康夫は2020年7月15日に享年74歳でこの世を去りました。白陵の1期生であり、息子である私は白陵の30期生であるため、ここに追悼文を書かせていただくこととなりました。

父は白陵のことをよく話題にしておりました。「だれが理事長になつた」「今年は大東に何人合格した」「誰がおまえのことを話していたぞ」と、よく笑顔で私に話してくれました。本当に白陵のことが好きだったのだと思います。1期生でもあり、60年近く関わつたのであり、自分たちで作り上げていった思いがあるのだと思います。

当然のことながら、私は父の学生時代を知りません。どのような性格で容姿で学力で、学友とはどのような顔で話していたのでしょうか。あの山の合間の校舎で、何を思つて生活していたのか分かりません。しかしこの追悼文を書かせていただくにあつて、父の白陵での学生生活を想像してみました。その姿は不思議と、最後の父とあまり変わることはない到達とした笑顔の父でした。

父は白陵ととても縁の深い人生を送らせていただきました。多くの人と出会い、多くの知識を学び、その人格を形成するにあつて多大な影響を受けております。そのおかげで、父はとても魅力的な人

つではあつても、本当に伝えたいことを伝えるものにはなつていないのではないかと感じました。少々無駄ではありますが、目の目を合わせて、相手の体温を感じ、その場の空気にも臨機応変に対応する授業にはどうもかなわない部分があることを実感したからです。ネットを通しての教育には、確かに優れたコンテンツはありますが、意味をなしかし、一定の知識がないと意味をなすことができず、深い処置にはつながりなくかつたりします。その点、従来の対面型教育には、ネット経由とは違つた次元での大変優れた要素があるといふことに改めて気付かされました。

生を送ることができました。父に代わりまして、白陵高等学校校には心からの感謝を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。父は白陵と関わることで、その人生はと



「ユートピア」2020年度入選作

プロフィール

黒坂 康夫氏

白陵一期生(1965年卒)白陵高等学校在学中スキー部を設立、1973年より黒坂歯科診療所開設、1980年から5年間白陵会会長在任、近年は絵画作品も多数手がけ、2019・20年度姫路市美術展でも入選。

### コロナ禍でのオーケストラの状況 —文化は国の基礎体力—

公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団 専務理事



14期生 浜橋 元

2020年2月頃から地球規模で感染が拡大した新型コロナウイルスの影響で、一時は世界中のオーケストラが活動を停止せざるを得ない状況に追い込まれました。世界の街々からクラシック音楽の生演奏、それをコンサートホールに聴きに来る聴衆の姿が消えてしまいました。クラシック音楽の長い歴史の中で、戦時下を除いて前代未聞の事態となりました。オーケストラの経営に関わる人間として、この1年を振り返ります。

私は、大学卒業後、サントリー(株)(現サントリーホールディングス(株))に入社し、同社で広報宣伝・営業などの分野の仕事に携わって来ました。2015年、ある日突然、「関西フィルハーモニー管弦楽団(以下関西フィル)の経営の面倒をみてほしい」と言われ、サントリーに籍を置いたまま関西フィルの専務理事を務めることになりました。サントリーを始めとした関西の様々な企業が関西フィルを支援しているが故の人事でした。クラシックファンの高齢化、若い世

代の娯楽の多様化、日本経済の停滞などにより最近のオーケストラの経営はただでも厳しい中、新型コロナウイルスが世界中のオーケストラを、そして関西フィルを直撃しました。関西フィルは毎年90公演ほどの演奏会を、関西2府4県の隅々まで出向いて行っています。その2/3が中止または延期となったのです。それだけの演奏会が失われれば収入は激減します。そして60人ほどの関西フィルの演奏家たちは皆自宅待機となりました。プロの演奏家にとつて人前で演奏できないほど辛いことはありません。世間では、「マスクが足りない」「学校が休校に」「飲食店への休業要請の補償は」等々のニュース報道があり注目されていましたが、いわゆる「イベント」は中止を余儀なくされるもの、そこに携わる人々への救済の話はありませんでした。1ヶ月ほど沈黙していた演奏家たちは我慢できず、遂に自宅からリモートで思い思いに演奏を始めました。ヴァイオリン、チェロ、夫婦でのミニコンサート。そして保育園の園庭でのボランティア金管五重奏……。そんな彼らの姿がインターネットを通じて世の中に発信されました。それからです。「オーケストラは大変なことになっているんですね」「生活できるんですか」「頑張ってください」等々の励ましの声が楽団に寄

せられ、マスコミも報道を始めるようになり出しました。そして寄附金が集まり出したのです。この一般市民の方々からの寄附、企業からの寄附が楽団を最悪の危機から脱出させるきっかけとなりました。日本では、音楽や美術といった文化は「贅沢品」「特別な人のもので不要不急のものと思われていたのかも知れません。しかしコンサートホールでの演奏会はオーケストラ文化の一角にすぎません。日本にオーケストラがなければ音楽教育や音楽教室は維持できません。幼いころから楽器の演奏を試みる人、舞台の勉強をする人、第九を歌いたい人、こういう人たちの表現の場が無くなります。学校の校内放送や商店街に流れる音楽の録音もできません。アニメの曲だつて映画やドラマの主題歌だつてオーケストラが演奏しています。日本の社会の隅々に組み込まれていて人々に潤いと勇気を与えているのです。社会が電子化され複雑になりリアルがわかりにくくなっているかもしれないが、その原型は人の技術による生の音なのです。

この原稿を書いているのは2020年12月。6月頃から演奏会は少しずつ再開されるようになりました。入場者はホール収容人数の50%以下という制限もありましたが、様々な実証実験を経て10月からは100%に戻りました。しかし、一時は小康状態を見せていた新型コロナウイルスの感染が再び拡大を始めます。正常に戻り始めたコンサート活動にも再



び暗雲がたれ込め始めています。依然として、海外からの指揮者やソリストといったアーティストの来日もままなりません。多くの方々からの寄附や支援により楽団が生き延びてゆくメドは立ったかに見えましたが、再び視界は不明瞭です。

若い世代への教育と同じく、「文化」はその国の基礎体力を担保するものです。どうか白陵の卒業生の皆様、お近くにもオーケストラがあると思います。ぜひ関心を持っていただき、演奏会に足をお運びください。それが日本の文化を支えることになり

#### プロフィール

1979年白陵高校卒業、同年東北大学文学部入学。  
1983年東北大学文学部フランス文学科卒業、同年サントリー(株)(現サントリーホールディングス(株))入社。広報部、宣伝部、営業部門、サントリー文化財団を経て、2015年関西フィルハーモニー管弦楽団に専務理事として出向、現在に至る。

### コロナ禍で動きはじめた高校生



42期生 加藤 拓馬

「球技大会も無くなりました。このままだとコロナに青春が奪われてしまう」オンラインでスマホ越しに高校生がつぶやきました。1ヶ月前まで高校生活を謳歌していた新2年生の女子生徒でした。2020年3月2日から終わりの見えない休校期間に突入していた時期のことです。

私は宮城県気仙沼市に住んでいて、NPOで教育事業に取り組んでいます。気仙沼の高校生が取り組むまちづくり活動などプロジェクト企画を通じた探究的な学びのお手伝いを、学校と連携して進めています。プロジェクト型学習(PBL)という言い方もされます。コロナ禍以前はまちにある集会施設や放課後の学校で不定期に集まることで中高生とコミュニケーションを取っていたので、私たちのようなNPOもコロナ禍で身動きが取れなくなってしまうかもしれません。休校開始から2日後の3月4日、気仙沼の知り合いの高校生に声をかけて初めてオンラインの集まりを企画、私にできること

は「今不安なこと」「今やってみたいこと」にひたすら耳を傾けることでした。冒頭の言葉もそんな中で聞いた言葉でした。

それからおよそ週2回の頻度でスマホやパソコンの画面越しで対話するようになります。次世代技術や気候変動など未来について学ぶゼミや、コロナ休校期間中に挑戦したいことを探究するゼミをつくりました。驚いたのは初めて見る高校生や卒業生まで集まってきたことです。そしてその集大成として、ゴールデンウィークに「気仙沼バーチャル文化祭」を企画。4日間に渡り、高校生たちが代わる代わるイベントを企画します。オンラインで全国の子ども向けにクイズ大会を開く生徒、ラジオ番組で休校期間中の恋愛相談、多地域のふるさと自慢大会、リモートで繋ぎながら近所のゴミ拾いキャンペーン、全てリモートの十人十色の企画です。結果約10名の高校生イベントに、地元気仙沼や全国、そして海外から一般の方110名のべ261名が参加してくれました。

私は白陵を卒業後、早稲田大学に進学、2011年3月卒業と同時に東日本大震災を経験、いともたつてもいられず内定先の会社に入社せず被災地気仙沼に飛び込みました。当初はガレキ撤去などのボランティアに従事しますが、そ

のままコミュニケーション支援に移行、そして持続可能な復興まちづくりを模索する中で教育事業に出会います。滞在期間は1年2年と延びていき、いつしか「移住者」と呼ばれるようになり、手探りで非常営利組織「一般社団法人まるオフィス」を起業、現在は妻と空き家を借りて二人の子どもと一緒に暮らしています。白陵中学校の修学旅行コースが東北なので、呼んでいただけは岩手県の花巻まで後輩たちにも自分の活動や生き方を話しても行きます。

そんな私にとつて2020年はまさに危機が好機に変わった年になりました。6月の学校再開後もオンラインゼミは無くならなかったのです。無くならなかったところから「Weeklyゼミ」と銘打って毎週開催に踏み切り、併用しています。全国からご寄付を募り、運営体制を整えているところ。現在も募集中です。応援よろしくお願います。「できなくなつた」事業の方が多いのは確かです。しかし「コロナで」できるようになった「こと」を見つけ出し、育てることが次世代の子どもたちに見せたい大人の背中です。12月、毎年気仙沼の市民100名以上が集まる高校生の探究活動のプレゼン大会があります。今年もオンライン配信も併用して敢行、ゼミ生たちがエンタリーしてこのコロナ禍にも関わらず過去最多の17組が登場しました。高校生が語ります。「コロナ休校中に声をかけられなかったら、わたしは挑戦してませんでした。私にとつて一番濃い半年だつ



気仙沼バーチャル文化祭の高校生の様子

#### プロフィール

漁師体験からプロジェクト型学習まで中高生のアクシオンを応援する「じもとまるまるゼミ」を宮城県気仙沼市で主宰。学生時代に中国やエジプトのハンセン病回復村を回り、2011年東日本大震災を機に新卒無職で気仙沼に飛び込む。漁師まちの半島で移住者を増やしながらまちづくりに取り組んだ後、課題だらけの日本のローカルは探究型の学びに最適だと確信、教育事業に至る。一般社団法人まるオフィス代表理事。89年生兵庫県出身。早稲田大学卒。所属は「一般社団法人まるオフィス」。

白陵会 令和元年度収支決算報告書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

単位/円

収入の部	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	10,276,383	10,276,383	0
会費収入	3,040,000	3,165,000	△125,000
終身会費	2,790,000	2,790,000	0
臨時会費	0	0	0
総会費	250,000	375,000	△125,000
会費外収入	1,021,000	1,567,150	△546,150
名簿収入	10,000	0	10,000
広告収入	0	0	0
利息収入	1,000	670	330
雑収入	1,000,000	1,566,480	△566,480
寄付金	10,000	0	10,000
総会積立金繰入収入	0	0	0
合計	14,337,383	15,008,533	△671,150

令和元年度 会務報告

実施日	内容	場所
令和元年 5月24日	理事会	福 亭
令和元年 6月22日	定例役員会 臨時総会	姫路商工会議所
令和元年 6月29日	東京白陵高校同窓会	デイトナイト大手町店
令和元年 9月27日	理事会	姫路商工会議所
令和元年11月30日	役員会(忘年会)	ホテル日航姫路
令和2年 1月28日	理事会	福 亭
令和2年 2月11日	第55回卒業式	白 陵 高 校
令和2年 2月15日	三会合同正副会長会	姫路商工会議所
令和2年 3月	会報第39号発行	

大学入学試験合格者数

大学名	国公立大学				
	令2年	31年	30年	29年	28年
東京大学	15	15	18	11	16
京都大学	25	23	16	28	15
大阪大学	17	13	13	15	19
神戸大学	17	20	14	12	17
東京工業大学	2	2		2	3
一橋大学	3	1	1	2	1
岡山大学	10	8	9	10	11
その他	89	90	94	85	74
合格者計	178	172	165	165	156
内医学部医学科計	39	62	49	52	38

※「国公立大学合格者計」は準大学を含む

支出の部	予算額	決算額	差異
事務費支出	215,000	76,995	138,005
消耗品費	20,000	3,485	16,515
印刷費	20,000	0	20,000
通信費	150,000	67,704	82,296
支払手数料	20,000	5,806	14,194
雑費	5,000	0	5,000
会議費支出	550,000	266,709	283,291
理事会費	200,000	158,769	41,231
役員会費	250,000	107,940	142,060
委員会費	100,000	0	100,000
事業費支出	1,750,000	1,185,594	564,406
総会費	200,000	581,688	△381,688
名簿発行費	0	0	0
会報発行費	1,000,000	233,200	766,800
ホームページ維持費	100,000	99,792	208
卒業記念品費	300,000	194,216	105,784
慶弔費	150,000	76,698	73,302
備品費支出	0	0	0
OB会活動助成金	300,000	270,000	30,000
渉外費支出	110,000	60,000	50,000
予備費支出	100,000	0	100,000
寄付金	0	0	0
小計	3,025,000	1,859,298	1,165,702
総会積立金	200,000	200,000	0
学校寄付積立金	500,000	500,000	0
次年度繰越金	10,612,383	12,449,235	△1,836,852
合計	14,337,383	15,008,533	△671,150

大学名	私立大学				
	令2年	31年	30年	29年	28年
早稲田大学	19	25	15	24	26
慶應義塾大学	20	21	19	21	18
東京理科大学	14	8	6	15	10
関西学院大学	23	12	16	20	9
関西大学	6	4	8	10	5
同志社大学	31	44	43	40	29
立命館大学	28	15	23	20	17
その他	96	125	116	90	66
合格者計	237	254	246	240	180
内医学部医学科計	41	45	59	46	32

コロナ下の大学一年

55期生 香川 楓子

今年度は例年通りいかないことが多かったのですが、教育学部の教員や先輩、同回生の様々なオンライン企画のおかげで充実した大学生活を過ごせました。オンライン企画では、偶然の出会いがない、大人教で話すのが難しい一方、時間と空間の制約が少なく、家が遠い実生でも時間を気にせず参加できるのが良かったです。小規模の学部ですが、様々な人がいて、今後財産となるような出会いに恵まれました。楽しいことばかりではなく、考え方の違いから時には誰かを知らず知らずのうちに傷つけてしまったりと、痛い思いもしましたが、中高とはまた違った、大学ならではの多様な価値観とそれを許容する空気に触れることができました。

55期生 井上 権乃

コロナで大変だった今年に限らないが、この一年で重要だったのは目標や自分のしたいことを考えて、それを実現するために行動を起こすことだったと思う。私は大学生になったら同じ学部、同じ大学に関わらず様々な人との関わりを持ち、これまでもありしてこなかった社会経験を積みたと思っていたので、大学に行けない中でできる範囲で学校やサークル、アルバイトの情報を集めた。それは主にSNSを頼っての情報が集まったが、そこから実際に人とのつながりが出来ると、得られる情報や他のつながりはより確かであるものになった。そのため今年一年を通して、自分で決めて動くことと人とのつながりの大切さを感じた。

白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	3	天野 泰文	常任幹事(広報)	8	前川 裕司	常任幹事(総務)	35	阪本 寛	常任幹事(総務)	52	稲垣 大翔
副会長	2	湖中 明憲	“(総務)	9	手井 幸男	“(研レ)	36	近藤 理恵	“(総務)	52	富木 琴乃
“	10	服部 博明	“(研レ)	10	加藤 雅宣	“(HP)	36	杉岡 央基	“(総務)	53	岡田 弦大
“	15	町田 直隆	“(総務)	12	西庵 利彦	“(総務)	37	岸上真紀子	“(総務)	53	後藤 真由
理事(研レ)	3	神吉 裕資	“(研レ副委員長)	13	矢野 善人	“(HP)	37	亀山 信生	“(総務)	54	佐々木仁哉
“(会計・総務)	4	岸本 和男	“(総務)	14	片山 安孝	“(総務)	38	上野 紘之	“(総務)	54	篠田 侑果
“(HP委員長)	6	長野総一郎	“(総務)	14	竹中 邦夫	“(総務)	38	堀 素史	“(総務)	55	東村 颯起
“(総務)	8	黒川 仁	“(総務)	16	田中 正一	“(HP)	38	住吉 寛紀	“(総務)	55	三木万梨子
“(研レ)	9	村角 伸一	“(総務)	18	秋田 直樹	“(総務)	39	堂國久美子	校内幹事(総務)	3	黒田 洋
“(研レ委員長)	10	吉田 達哉	“(総務)	19	牛尾 英樹	“(総務)	39	根木 厚	“(総務)	11	小紫 一貴
“(研レ)	10	下村 康夫	“(総務)	21	河合 恵介	“(総務)	40	赤澤 剛	“(総務)	12	畔上 昇
“(広報副委員長)	11	志方 正彦	“(研レ)	22	野津 康弘	“(総務)	40	廣江 祥子	“(総務)	12	山口 透
“(総務)	11	来栖 昌朗	“(研レ)	23	中里 寛	“(総務)	41	竹内 雅浩	“(総務)	12	中村 大吾
“(広報委員長)	13	水田 堅	“(総務)	24	奥本 光廣	“(総務)	42	賀川 拓哉	“(総務)	14	久保 博彦
“(総務)	13	飯島 義雄	“(総務)	24	藤原 省悟	“(HP)	42	宮崎はる香	“(総務)	15	村上 幸生
“(総務)	15	福永 安洋	“(総務)	25	多根 正明	“(HP)	43	八杉 佳奈	“(広報)	15	西 善弘
“(総務委員長)	17	岡野 清和	“(HP)	26	大西 康記	“(総務)	44	立田 裕昌	“(HP)	37	神尾 祐輔
“(会計・HP)	19	尾上 尚樹	“(総務)	27	山田 将義	“(総務)	44	恒光 綾子	“(総務)	39	石岡 知久
“(総務)	20	石井 秀武	“(広報)	28	柿本 晴彦	“(総務)	44	上月 理加	“(HP)	39	清水美沙子
“(総務)	23	譜久山 剛	“(総務)	28	上山 奉伯	“(HP)	45	三浦 学登	“(総務)	42	小川 裕人
“(研レ)	26	萩原 唯典	“(HP)	29	岡田 康裕	“(総務)	45	坪谷 沙紀	“(広報)	43	汐田 彩弥
“(研レ)	29	山下 展成	“(研レ)	29	浜田賢太郎	“(HP)	46	戸田 美希	“(広報)	46	川口 澄恵
“(研レ)	35	中村 亮太	“(HP)	30	上新 貴弘	“(総務)	46	宮脇 規壽	“(総務)	49	福永 航平
書記(総務)	44	山田 祥五	“(研レ)	31	後藤 大悟	“(総務)	47	戎 直哉	顧問(理事長)		斎藤 興哉
会計監査(広報)	23	三木 健史	“(総務)	31	酒井 雅史	“(総務)	47	中谷 英巴	“(校長)	11	宮崎陽太郎
“(研レ)	35	安田 孝弘	“(総務)	31	木下 智晴	“(総務)	48	井上 千華	“(教頭)		高見 繁統
常任幹事(総務)	1	芝本真須美	“(HP)	31	村山 稔	“(総務)	48	建石 真一	“(特別参事)	2	川副 義文
“(広報)	1	正井 和野	“(総務)	32	酒井 勇人	“(総務)	49	立石裕之輔	“(元会長)	1	遠山 寛
“(研レ)	4	森崎 晴知	“(総務)	32	小澤有紀子	“(広報)	49	橋本 端季	“(元会長)	11	黒川 芳一
“(総務)	5	塩崎 育男	“(総務)	33	藤井 拓郎	“(総務)	50	池上 学歩	“(前会長)	3	沼田 好道
“(研レ)	5	橋本 義仁	“(総務)	33	北尾由美子	“(総務)	50	津田 彩花	“(前副会長)	6	上田 喜裕
“(研レ)	6	大崎 章快	“(広報)	34	上垣 孝俊	“(総務)	51	佐々木優一			
“(総務)	7	萩本 義郎	“(総務)	34	牧野 琢丸	“(HP)	51	笹久保菜奈			

(令和3年3月1日現在)

～ホームページ委員会からのお知らせ～

令和3年4月1日より

『白陵会』ホームページをリニューアルします。

昨年より、白陵会名簿でお世話になりました(株)サルト社にホームページのリニューアルを依頼し、検討を重ね、ようやく4月1日に公開する運びとなりました。今回の大きな変更点は、ホームページ委員会が自主管理運営することです。この事により、総会・同期会やクラブOB・OG会の案内、活動報告を活性化できると考えております。また、維持費も安く抑えることができました。まだまだ、未完成の部分あるかと思っておりますので、会員の皆様には、何かお気づきの点がありましたら、ご連絡をお待ちしております。よろしくお祈り致します。



白陵会定例総会  
開催延期のお知らせ

6月下旬に予定しておりました白陵会定例総会は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み開催を秋に延期することになりました。詳しい予定については改めてご連絡させていただきます。何卒ご理解、ご協力ください。よろしくお願いいたします。

白陵会News

白陵生の活躍

- 二〇二〇年七月 第十二回情報処理選手権プログラミング部門 第四位 岡坂郁杜君(高二)
  - 二〇二〇年八月 マリンチャレン 西尾彩里さん(高一) 優秀賞 井上愛菜さん(中三)
  - 二〇二〇年十月 物理チャレンジ二〇二〇 優良賞 鎌谷一生君(高三) 森芳健司君(高三) 伊藤陽莉さん(高一) 川北魁人君(高三) 妻鹿涼将君(高三)
  - 二〇二〇年十一月 第三十五回全国高等学校文芸コンクール 詩部門入賞 志摩光咲さん(高二)
- また、県大会などでは第四十四回兵庫県高等学校総合文化祭書道展全国総文推薦賞。将棋部が第四十四回兵庫県高等学校総合文化祭将棋部門個人戦A級四位、B級二位。二〇二〇年度兵庫県高校将棋選手権大会代替大会A級優勝、四位。C.P.CがSuperCon二〇二〇予選通過など優れた成績を各部・個人で収めています。

転退職教職員紹介

令和二年三月

- 佐藤範子先生(国語) 平成二十一年四月～令和元年十月
- 田中匠先生(保健) 平成二十九年四月～令和二年三月
- 高橋明子先生(家庭科) 平成三十一年四月～令和二年三月
- 古河悦子職員(事務) 昭和五十九年四月～令和元年八月
- 宮崎伸子職員(校務) 平成八年九月～令和二年三月
- 勝山悦成職員(事務) 平成九年四月～令和二年二月
- 岡本智美職員(図書) 平成十七年四月～令和二年三月
- 廣納章人職員(事務) 平成三十一年四月～令和二年一月

白陵会物故者

- 浅江季典先生(元校長) 令和二年十二月 逝去
  - 前川雅弘先生(旧職員) 令和三年二月 逝去
  - 中曾(水嶋)麗先生(旧職員) 令和二年八月 逝去
  - 黒坂康夫氏(一期生(元会長)) 令和二年七月 逝去
  - 後藤州博氏(二期生) 令和元年九月 逝去
  - 塩谷誠氏(四期生) 令和二年一月 逝去
  - 兼子福生氏(五期生) 逝去
  - 内堀(砂泊)郁江氏(十九期生) 令和二年十二月 逝去
  - 長尾茂人氏(三十期生) 平成三十一年三月 逝去
  - 今橋大輔氏(四十四期生) 令和二年八月 逝去
- 心よりご冥福をお祈りいたします。

編集後記

「莫妄想(まくもうぞんご)という言葉があります。「いろいろ悩み、惑うのではなく、今できることをただひたすらに行う」というような意味で用いられます。この一年、世界が、「妄想」に包まれていた感があります。「新型コロナウイルス」然り、社会も政治も経済も何が正しいのかどうでないのか、混沌とした日々が続いています。将来「コロナ世代」と呼ばれるであろう若者たちはその中でもがき進んでいます。今できることを一杯やろうとしています。「白陵会」も56期という期数を数えました。その絆が今後いろいろな場面での価値を発揮することと思います。今回はコロナ禍における会員の皆様の活動の一部を紹介しました。「会報」は「触媒」です。ここからさらに絆が広がる機会が生まれればと思っています。ご協力のほど、よろしくお祈りいたします。なお同窓会報のバックナンバーは白陵会HPで閲覧可です。一度、覗いていただけると幸いです。